1．やるかやらんか迷ったら、やる！

大阪商業大学　学長　谷岡　一郎

「やるかやらんか、迷ったらやる！」。私が常に学生たちに言い続けている、この大学の基本精神を言い表わすフレーズです。もちろん悪い行為は思いとどまるべきですが、それ以外の行為でやるか否か迷っている時は、自分の背中を押しなさい、という意味で言い続けているのです。

この言葉を自分の座右の銘としたのは、留学中のあるきっかけによります。ある日、知人のガーデン・パーティに誘われ、何となく行きたくない気持ちを持っていた私は、「やめようかな、何となくめんどうだな」と考えていました。その時、「あ、オレは今、後ろ向き思考に入っている、逃げようとしてるのでは」と思い当たり、あえて行くことにしたのです。結果としてそこで得た経験は大変貴重でありました。加えて知り合った友人たちは、のちの人生に大きな意味があったのです。今でも大切な友人です。

それ以来、とにかく「何にでも首をツッコンでみよう」、「迷った時はやる方を取ろう」と考えるようになりました。コロナ渦中においても、ギャンブル依存研究、手塚治虫プロジェクト、発声と幸福に関する研究、IRコンテンツ研究などを新規プロジェクトとしてスタートし、同時に３～４冊の本―ずっと書きたいと考えていた内容―を仕上げましたおかげで、少々忙しくなったのは確かです。しかし私はその忙しさが楽しいのです。

「起業」は、とにかくやってみることが重要です。「アイデアはあるんだけど、時間がなくて…」という人もいるでしょうが、まず何からでスタートする気持ちが必要なのです。巷でよく見かける「資金を支援しますから、ベンチャーしませんか」という類の行為も悪いとは言いませんが、私にあえて言わせてもらうなら、ベンチャーとは、自分で出資者を探し、銀行や投資してくれそうな人々に頭を下げ、見つからなければ「自分の大切なものを質に入れてでもやりたい」と考えるものであってほしいのです。つまり「リスクをとってでも」というスピリットです。起業は新しい価値を生み出し、ひいては人々を幸せにする大きな要素ですから、大阪商業大学の卒業生はすべからく、（将来は）必ず何かを生み出し、世の役に立つんだという気持ちを持ってほしいのです。

むろん人それぞれ置かれた環境は異なりますから、物理的にそれができない人もいるでしょう。とりあえずそんな気持ちを持つことで充分です。しかし次の起業家を育てる力には、誰でもなれるものと信じます。他人を啓蒙する、あるいは次の世代を激励するような形でもOKです。

卒業式のあとの茶話会などで、よく学生が私のところにやって来て、「これからも、やるかやらんか迷ったら、やります」などと言ってくれます。学長冥利に尽きる瞬間です。

この起業教育がその目的を果たし、将来のリーダー育成に寄与することを心より祈念しております。